

令和元年度 事業報告

総括

公益法人としてより一層の組織体制全般及び事務、事業の推進を図り、加盟団体との連携体制の適正化や事務事業の効率化、競技力向上やタレント発掘事業、スポーツ医・科学事業等の推進において、一定の成果を上げることができた。

- (1) 会議、委員会
 - ・ 定例理事会を3回開催した。
 - ・ 定時評議員会を1回、臨時評議員会を1回開催した。
 - ・ 評議員選定委員会を1回開催した。
 - ・ 専門委員会等
 - 総務委員会、財務委員会を3回開催した。
 - 企画委員会、競技力向上対策委員会を3回開催した。
 - 普及委員会、表彰委員会を3回開催した。
 - ・ 4月に加盟団体事務事業説明会を開催した。
- (2) 自主財源確保事業
 - ・ 賛助会員募集 法人会員161件、個人会員76件
 - ・ 協賛広告募集 14件
 - ・ オリジナルシャツ販売 444着
 - ・ Sports for all 推進費付き自動販売機 1台

1 競技力向上事業

継続、安定した競技力を目指し、関係機関団体と連携して、事業等の検証、競技団体の組織運営の向上、指導者の育成、県民の理解、支援拡大に取り組んだ結果、各事業で下記のとおり成果を上げることができた。

- (1) 選手強化事業
 - ・ 競技団体41団体、個人11名、海外遠征費の一部を13名に補助した結果、全国大会等での活躍が見られた。
- (2) ジュニアブリッジ育成事業
 - ・ 競技団体29団体に強化活動費の一部を補助した結果、合同練習、遠征を中心とした小中学生の選抜チームの強化が進んだ。
- (3) 宮崎ワールドアスリート発掘・育成プロジェクト事業
 - ・ 世界や全国の舞台で活躍できるトップアスリートの育成を目指して、122名のアスリート生を対象に、月2回の育成プログラムや専門化を図るためのパスウェイプログラムを実施した。また、県内の小学4年・5年生を対象にオーディションを実施した結果、男女27名の第5期生が認定された。
- (4) 加盟団体組織整備事業
 - ・ 競技団体41団体に強化対策活動費の一部を補助した結果、競技力向上に向けた組織整備が図られた。

- (5) 強化推進事業
- ・本会と競技団体との協議：11月から1月の間、41競技団体と協議した。
 - ・選手強化対策会議開催
第1回：5月17日、国民体育大会関係競技団体強化担当者を対象に、KIRISHIMA ツワブキ武道館大会議室において、「本県における競技力向上に向けた取組」等について説明を行った。
第2回：6月28日、国民体育大会関係競技団体強化担当者を対象に、ニューウェルシティ宮崎において、男子ハンドボール日本代表 GK コーチ 県立都城工業高等学校の北林健治教諭をお迎えし、「誠実さ・高潔さ・真摯さ」をテーマに講演を行った。
第3回：11月18日、国民体育大会関係競技団体強化担当者を対象に KIRISHIMA ツワブキ武道館大会議室において、チームみやざき強化アドバイザー招へい事業の報告や次年度の国体に向けて意見交換した。
 - ・国民体育大会強化指定証交付：41競技団体1,778名に交付した。
 - ・視察、激励、支援要請のため、競技団体、企業、学校等を訪問した。
 - ・社会人選手、指導者の就職支援のための就職はなかった。
- (6) 国体選手育成強化事業
- ・大学・社会人スポーツ支援：6団体、個人14名を指定して活動費の一部を補助した結果、九州大会・全国大会での活躍が見られた。
- (7) アスリート育成支援プロジェクト事業
- ・トップチーム活用事業：12団体を指定して活動費の一部を補助した結果、全国トップレベルのチームを招聘して本県チームの強化を図ることができた。
 - ・メンタルコーチ等活用事業：8団体を指定して活動費の一部を補助した結果、選手のメンタル面の強化を図ることができた。
- (8) 女性アスリート強化対策事業
- ・女性アスリート支援事業：11名のママさんアスリートと22名のふるさと選手、国民体育大会女子種目等の選手17名、団体種目の11チームに対して活動費の一部を補助した結果、国民体育大会や全国大会等での活躍が見られた。
- (9) 障がい者アスリート支援事業
- ・個人強化選手：4名、海外派遣選手等支援：4名に、活動費の一部を補助した結果、全国大会等での活躍が見られた。
- (10) チームみやざき強化アドバイザー招へい事業
- ・16団体を指定して活動費の一部を補助した結果、高い指導力や豊富な指導経験を有する全国トップレベルの指導者を「チームみやざき強化アドバイザー」として招聘し、各競技団体の競技力強化を図ることができた。

2 国民体育大会派遣事業

帯同コーチ、ドクター、トレーナーの確保を図り、その派遣等を通して試合環境の整備を推進することができた。

- (1) 国民体育大会九州ブロック大会派遣
- ・夏季大会：5月から7月に佐賀県他で開催の10競技に選手、役員等165名を派遣した結果、7競技で18の代表権を獲得することができた。
 - ・秋季大会：8月、佐賀県で開催の21競技に選手、役員等659名を派遣した結果、12競技で21の代表権を獲得することができた。
 - ・冬季大会：12月、福岡県で開催の1競技に選手、役員等30名を派遣した。
- (2) 国民体育大会派遣
- ・本大会：9月から10月に茨城県で開催の31競技に選手、役員等480名を派遣した結果、5競技8種別の団体、10競技47種目の個人が入賞し、天皇杯順位41位という結果を収めた。
 - ・冬季大会：2月に富山県で開催の1競技に選手、役員30名を派遣した。

- (3) コーチ派遣
 - ・国民体育大会九州ブロック大会：41名を派遣した。
 - ・本国体：43名を派遣した。
 - ・冬季大会：3名を派遣した。
- (4) ドクター、トレーナー派遣
 - ・国民体育大会九州ブロック大会：トレーナーを17名派遣した。
 - ・本国体：ドクター2名、トレーナーを14名派遣した。
 - ・冬季大会：ドクター1名、トレーナー1名派遣した。

3 みやざき県民総合スポーツ祭事業

- ・大会の活性化を図るため、競技者、観戦者の視点に立って開催時期、種目、運営方法等を見直すことができた。
- ・総合開会式は6月1日、木の花ドームで開催し、大会は7市9町66会場で5月から2月の間、59競技に16,320名が参加した。

4 スポーツ指導者養成事業

- ・公認スポーツ指導者の活用、活躍に向けて、公認スポーツ指導者資格の啓発、指導者の資質向上に取り組み、地域のスポーツ指導者の取組を支援することができた。
- ・宮崎県スポーツ指導者協議会理事会を3回開催した。
- ・スポーツ指導者研修会を2月8日、宮崎県武道館 大会議室で開催した。
講演：「宮崎から全国の舞台へ ～雑草集団を変えたもの～」
講師 三輪 正和 氏（宮崎産業経営大学 硬式野球部監督）
講義：「運動能力向上に必要な機能」
講師 菅原 康史 氏（一般財団法人弘潤会 野崎東病院）
- ・全国スポーツ指導者連絡会議（12月、東京都）に1名出席した。
- ・表彰推薦：日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰で4名が受賞した。
- ・スポーツ指導者協議会機関誌「躍動みやざき」（第8号）を発行した。

5 地域スポーツ振興事業

競技の普及、競技力の向上、スポーツに対する県民の意識向上のため、加盟団体、報道機関、行政等と連携して、関係事業を推進することができた。

- (1) 総合型地域スポーツクラブ設立、育成支援
 - ・今年度までに16市町村32クラブとなった。
 - ・クラブ連絡会議を3回、県総合型クラブ連絡協議会を3回、県総合型クラブ運営委員会を3回開催した。
 - ・クラブマネジメントセミナーを8月31日・9月1日にKIRISHIMA ツワブキ武道館中会議室で17名が参加して開催した。
 - ・クラブ訪問については、55回実施した。
 - ・市町村主管部局を訪問し、啓発活動・設立要請を含め32回実施した。
- (2) 生涯スポーツ普及活動支援事業
 - ・総合型地域スポーツクラブ7クラブ、生涯スポーツ加盟団体2団体に対し、支援を行った。

- (3) 加盟団体組織整備補助
国体競技団体以外の13競技団体と3学校体育団体、15市郡体育協会に補助金を交付した。
- (4) 第10回宮崎チャレンジマッチ：6月22日、23日に宮崎市総合体育館においてバドミントン競技で開催、約1,400名が参加・観戦した。男子は、東大阪大学柏原高校(大阪)、女子は、四天王寺高校(大阪)を招待して実施することができた。
1日目：県内小中学生を対象としたバドミントン教室を実施し、くまもと再春館製菓所の監督・コーチ・選手の方々に講師を務めていただき、小中学生の意欲喚起に繋がった。
2日目：チャレンジマッチとして、団体戦(ダブルス・シングル1・シングル2)を実施した。全国レベルの技術を実感でき、その後の国体等では、大きな成果を収めることができた。
- (5) 名義後援、共催
・加盟団体等の事業、大会の後援：133件
・宮崎県市町村対抗駅伝競走大会、宮崎チャレンジマッチ、UMKスポーツフェスタを共催した。
・第9回宮崎県エンジョイスportsフェスティバルは令和2年2月9日にJA・AZMホールで青山学院大学陸上競技部長距離ブロック監督原晋氏の講演会を開催し、多くの参加者があった。

6 スポーツ医・科学事業

宮崎県体育協会認定アスレティックトレーナー(AT)養成講習会も8回目を迎え、2026宮崎国スポ・障スポに向けたATの確保、活用を更に推進することができた。

- ・医・科学委員会を3回開催した。
- ・ドーピング防止研修会2回開催：9月、1月の国体結団壮行式で監督、選手等を対象にして実施した。
- ・スポーツ相談：国民体育大会結団壮行式の開催に合わせて、ドーピング防止研修会とともに開催した。
- ・メディカルチェック：11月24日、国体候補選手(陸上、ボクシング、バドミントン、ウェイトリフティング、カヌー、自転車、ソフトテニス)の7競技79名に実施した。
- ・メディカルチェック報告会：2月24日に野崎東病院にて、6競技(陸上、ボクシング、バドミントン、ウェイトリフティング、カヌー、自転車、ソフトテニス)を対象に実施した。
- ・宮崎県体育協会認定アスレティックトレーナー養成講習会開催：7月から1月の間新規受講者13名、年5回の講習会を実施した。
- ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講習会に1名派遣し、日本スポーツ協会公認ドクター養成講習会に2名を推薦した。
- ・国民体育大会の帯同ドクター、アスレティックトレーナーを派遣した。

7 スポーツ顕彰事業

表彰の推薦及び表彰事務が適正、円滑に行われるよう規程等を見直し、整備することができた。

- ・スポーツ功労賞、優秀賞、奨励賞、推進賞：6月の県民総合スポーツ祭総合開会式において個人52名と1団体を表彰した。
- ・小・中学生を対象にしたスポーツ優秀賞、奨励賞を2月に該当小、中、高等学校等訪問して5団体、72名の選手、指導者を表彰した。
- ・国民体育大会賞及び感謝状：11月に団体5競技8種別、個人10競技47種別、計151名を表彰し、1名に感謝状を授与した。
- ・スポーツ少年団功労賞：6月の中央大会総合開会式で3団体、個人4名を表彰した。

8 スポーツ少年団事業

団員減少、指導者の資質向上、学校及び地域のスポーツ団体との連携など課題解決に組織全体で取り組んだ。

今年度の登録団数は779団、登録団員は13,266名（前年度804団、13,613名）、登録指導者は2,845名（前年度2,875名）で減少傾向であった。

- (1) 宮崎県中央大会開催
 - ・大会実行委員会の協議に基づき、9ブロックの予選会を経て、6月に宮崎県総合運動公園を主会場に18競技に3,162名が参加して開催した。
- (2) 競技別交流大会開催、派遣
 - ・九州競技別交流大会：九州6県で6競技に本県から派遣をした。
 - ・全国スポーツ交流大会：バレーボール（3月、岐阜県開催）に14名が参加予定。
- (3) 認定員養成講習会開催
 - ・6月と1月に宮崎市で実施して計288名が受講した。
- (4) リーダー育成事業
 - ・ジュニアリーダースクール：7月26日から28日まで45名が参加して青島青少年自然の家で実施した。
 - ・九州ブロックスポーツ少年大会：8月10日から13日まで熊本県で開催された。本県からは指導者2名団員11名が参加した。
 - ・全国スポーツ少年大会：8月1日から8月4日まで長崎県で開催され、指導者1名、団員4名の計5名が参加した。
 - ・リーダー会活動：少年団事業の補助活動を5回実施した。
- (5) 指導者研修会開催
 - ・指導者研修会等派遣：全国スポーツ少年団指導者協議会に1名を派遣した。
 - ・スタートコーチ（スポーツ少年団）インストラクター移行研修会：11月に福岡県で開催され、19名が参加した。
- (6) 母集団育成研修会、ブロック別研修会、リーダー研修会開催
 - ・母集団育成事業を8市町村、ジュニアリーダー研修会を都城市で開催した。

9 広報及び記録収集、活用事業

本会、加盟団体及び本県スポーツに対する認識向上のため、SNSの活用などあらゆる機会を利用して情報を発信することができた。

(1) 広報

- ・宮崎体協発行：県内関係機関に、12月に1,900部、3月末にも1,900部発行した。
- ・スポーツイベント発行：年4回、ホームページで掲載した。
- ・HP運用：月平均アクセス数289,283件
- ・国民体育大会や本会の関わる会議、事業等の様子を即時に情報発信できるようフェイスブックの活用努めるとともに、HP上に国民体育大会申込専用ページをリンクさせ、情報発信に努めた。
- ・広報機関誌「宮崎体協」やHPを利用し、本県スポーツ施設の利用促進のための情報を発信した。

(2) 記録収集、活用

- ・本会、加盟団体の事業、活動記録及び本県スポーツ情報を収集、管理し、HP等を通して県民に提供した。

10 スポーツ交流事業

日本スポーツ協会の交流事業を活用して国際交流を推進した。

(1) 日独スポーツ少年団交流事業

- ・7月29日から7月31日まで門川町で受入を実施した。
- ・令和元年度、本県よりドイツ派遣はなかった。
- ・九州I・IIグループ（派遣）の事前研修を6月22日・23日の2日間、宮崎市内ホテルで実施した。